

# 校内授業研究会における授業評価に関する研究Ⅱ

－「授業評価シート」の項目改善による記述内容の変容－

○若井広太郎 田上幸太 仲野みこ 初村多津子 高津 梓 北村洋次郎 森澤亮介

(筑波大学附属大塚特別支援学校)

KEY WORDS: 校内授業研究会 授業評価 評価シート

## 【目的】

筑波大学附属大塚特別支援学校（以下、本校とする）では、『みんなが学べる授業研究会』をスローガンに掲げ、教師の授業力の向上や同僚生の促進を目的とした授業研究会のあり方を検討してきた。具体的な取り組みの一つとして、授業評価シートを活用した授業評価と、協議会におけるフィードバックを行っている。若井ら（2016）では、共通の授業評価シートを用い、協議の柱を明確にして授業研究会を行うことで、授業者、参観者における双方向的な学び合いにつながる事が示唆された。その一方で、「その他」の記述が多く、項目の検討や整理が必要であることが示された。そこで本研究では、前年度の記述内容を基に評価シートの改善を行い、新たなシートにおける記述内容の分析から、取り組みの有効性や今後の可能性について検討することを目的とする。

## 【方法】

### (1) 校内授業研究会

本校校内授業研究会における研究授業および研究協議を対象とした。授業研究会は平成 28 年 6 月から 12 月の間に 4 回行われた。午前には幼稚部から高等部の内、2つの学部が研究授業を行い、午後には研究授業についての協議を行った。各学部の研究テーマと協議会における協議の柱を Table 1 に示す。参観者は研究授業を参観し、授業評価シートの項目に基づいて、意見や改善のアイデア、感想等を記入した。また評価シートは授業改善の根拠の一つとして活用できるよう、協議会後に集約し、授業者に手渡した。

Table 1 各学部の授業研究会テーマと協議の柱

部	研究授業で行った授業	研究テーマ	協議の柱
幼稚部	「絵本であそぼう！」 (設定あそび)	「インクルーシブ教育における乳幼児期のカリキュラムづくりと包括的アプローチ」	・情動共有 ・情動表出
小学部	はな組「はらっぱたんけんたい」(生活単元学習) つき組「みんなでゲームをしよう！」(生活単元学習) そら組「しよくよくのあき・いけいじゆつのおき」(造形)	児童の自己の育ちと他者との関わりを育む授業づくり「意思の表明」の基盤となる力を育む授業省察を通して	・学んでいる所、つまづいている所 ・自己の育ち ・他者との関係性 ・意思の表明
中学部	「みんなであそぼう！に世界旅行！～調べて、体験して、発表しよう！～」(生活単元学習)	中学部段階における生徒の「願い」を実現し、育てるための個別教育計画と授業づくり	・「願い」を反映した個別教育計画 ・「願い」を育てる授業 ・一人一人の「願い」の育ち
高等部	「調べる・まとめる・発表する」(総合的な学習の時間)	生徒の「願い」や「意思」を尊重した授業づくり ～互いに支え合い、自尊感情を育む「協同学習」を通して～	・他者理解・協同 ・自己理解・意思表明 ・役割 ・振り返り

### (2) 授業評価シートの改編

授業研究会を行うにあたり、授業評価シート「みんなで見よう！考えよう！」という共通の書式を用いた。平成 27 年度の評価シートを集計分析し、研究部で検討した結果、「その他の記述欄に、子供達の学習の様子といった重要な記述が多い」、「その他の観点を具体的にすると記述しやすい」という意見が出された。そこで「具体的な子供の様子」という項目を「目標の評価」の欄に加え、「その他」の欄内に「実施期間や回数」、「指導案」、「授業研の進め方」といった計画や運営に関する項目を追記し、平成 28 年度版のシートとして改編した。

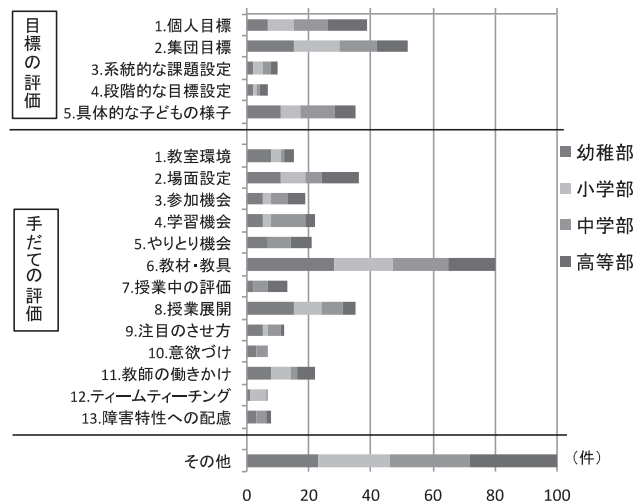
### (3) 記録方法

評価シートの記述内容を各項目に分類し件数を集計した。

分析方法は若井ら(2016)に準じて行った。複数の項目に関する記述については、1文毎で区切りカウントをした。

## 【結果と考察】

Fig.1 に評価シートの記述件数を示した。目標の評価と手だての評価についての総記述数は 415 件と前年度 (444 件) に比べて減少をしたが、目標の評価については 122 件から 143 件へと増加をした。特に「5.具体的な子供の様子」について新たに 35 件の記述があった。記述の内訳については、目標の評価では「2.集団目標」、「1.個人目標」の順で多く記述が見られた。また手だての評価では「6.教材・教具」、「2.場面設定」、「8.授業展開」、「11.教師の働きかけ」の順で記述が多かった。この傾向は前年度と同様であり、教材や授業展開 (活動の見通し)、教員の働きかけに参観者が注目していたことがうかがえる。またその他の記述では、これまでも見られた授業の感想や労いの言葉に加えて、各部の研究内容に関する記述や、指導案の形式、協議会の持ち方などに関する記述も見られるようになった。また「事前の研究提案があると、授業が見やすい。」などの研究運営に関する記述も多く見られた。目標と手だての評価の観点を再整理することで、その他の記述が多様になったことも成果の一つと考える。一方で総記述数は減少をしているため、今後も多くの参観者が記述をしやすい評価シートの形式や内容を検討する必要がある。



## 【附記】

本研究は、筑波大学附属大塚特別支援学校全教員による共同研究である。また、本校は平成 28 年度文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」の指定を受けた。

## 【文献】

若井ら(2016)校内授業研究会における授業評価に関する研究-「授業評価シート」の評価内容の分析を通して-,日本特殊教育学会第 54 回大会発表論文集,P11-53.

(WAKAI Kotaro, TAGAMI Kota, NAKANO Miko, HATSUMURA Tatsuko, TAKATSU Azusa, KITAMURA Youjiro, MORIZAWA Ryoosuke)